

□ 営業の概況

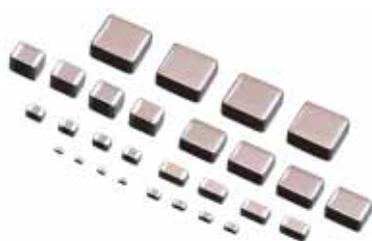


2005年3月期の連結売上高は前期6,557億92百万円から0.3%増加し、6,578億53百万円となりました。

当期のエレクトロニクス産業においては、アテネオリンピック等のイベントが液晶およびプラズマに代表される薄型テレビやDVD(デジタル多用途ディスク)レコーダー等デジタル家電の需要を押し上げ、結果として当社グループが扱っている電子部品の需要も上期は好調でした。しかし、下期に入り、これらの最終製品の生産調整に伴い、電子部品の需要は冷え込みました。このような経営環境のなか、当期も引き続き収益構造改革を実行する一方で、コンデンサの生産能力増強やHDD用ヘッドの戦略的提携を行うなど、成長に向けた投資も積極的に行いました。次に部門別の営業概況を説明します。

電子素材部品部門

当部門の売上高は、5,452億14百万円(前期5,197億92百万円、前期比4.9%増)、営業利益は、675億20百万円(前期587億15百万円、前期比15.0%増)となりました。電子材料製品および電子デバイス製品をみますと、上期はアテネオリンピックによるデジタル家電の需要押し上げがあり、それに伴う部品需要が好調でしたが、下期はデジタル家電の在庫調整の影響を受け部品需要は冷え込み、部品売価の下落も進みました。その結果、電子材料製品および電子デバイス製品の売上高は前期比で増加しました。記録デバイス製品は、前期下期にHDD(ハードディスクドライブ)の需要が好調だった反動で当期上期は在庫調整があり、HDDの需要が低調でしたが、下期に入り、その在庫調整も一巡したことで、HDD用ヘッドの需要も増加しました。その結果、記録デバイス製品の売上高は前期比で増加しました。製品ごとの概況については次の通りです。



積層セラミックチップコンデンサ

電子材料製品

<製品説明>

「コンデンサ」の主要製品である積層セラミックチップコンデンサは、チタン酸バリウムや酸化チタンを主成分とする誘電体とニッケルやパラジウムを主成分とする内部電極を、それぞれ数~数十マイクロメートル(μm)の厚さで交互に幾層にも重ねたものです。コンデンサは電気

(電荷)を蓄えることができるので、電子機器の回路内において充放電作用を利用し、電流の平滑・安定化、ノイズ対策、カップリング(直流分を阻止、交流分を通過)等に使用されています。この積層数を増やすことで、コンデンサに蓄えることのできる電気(電荷)を増加させることができます。

「フェライト」は、酸化鉄を主成分にコバルト、ニッケル、マンガンなどを含む電子材料(主に磁性材料)のことで、粉末原料を焼結して製造されるこ



フェライトコア

とからセラミックスの仲間にも加えられるため、磁性セラミックスとも呼ばれます。フェライトは大きく2つに分けることができます。1つはトランスやコイルのコアとしての磁心材料(ソフトフェライト)ですが、このソフトフェライトの特性を高めることで、トランスやコイルの小型化・軽量化・高効率化を促進することができます。もう1つはフェライトマグネットに代表される永久磁石材料(ハードフェライト)です。「フェライトマグネット」はOA機器、AV機器そして自動車等に使用される各種モーターの内部に使用されています。TDKは、フェライト材料の他にサマリウム、ネオジウム等の希土類金属を主成分とする「希土類マグネット」も製品化しています。「希土類マグネット」はフェライトマグネットより小さくても、大きな磁気エネルギーを持つことから、HDD(ハードディスクドライブ)に使われている小型・軽量VCM(Voice Coil Motor)や自動車用途に使われています。



フェライトマグネット

<売上高概況>

当製品区分は「コンデンサ」と「フェライトコアおよびマグネット」の2つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,748億円(前期1,668億18百万円、前期比4.8%増)となりました。

「コンデンサ」:売上高は前期比で増加しました。コンデンサの主要製品である積層チップコンデンサは、既述の通り上期は好調、下期は低調な需要環境の中で、売価下落や為替の影響を製品構成の改善により吸収することができ、売上高は前期比で増加しました。

「フェライトコアおよびマグネット」:売上高は前期比で増加しました。フェライトコアはデジタル家電向け汎用電源や通信機器向けコアの需要が増加しているものの、ブラウン管テレビに使われる偏向ヨークコアおよびフライバックトランス用コアの生産能力を削減したことにより、売上高は前期比で減少しました。マグネットは自動車向けやHDD向けの需要が堅調に推移した結果、売上高は前期比で増加しました。これらの結果、フェライトコアおよびマグネットの売上高は前期比で増加しました。



希土類マグネット

電子デバイス製品

<製品説明>

「インダクティブ・デバイス」の主な製品には、コイル(インダクタ)、EMC対策部品があります。コイルは一般にはコア(磁心)に導線をらせん状に巻いたもので、そのコアにはフェライトなどが使われています。コイルは導線に流し

た電流で磁気を発生したり、磁束の変化に応じて起電力を生じたりするので、電子回路に幅広く使用されているものです。当社ではコイルを樹脂で固めたSMD(表面実装部品)タイプや、コイルパターンを印刷積層で形成したチップタイプのコイルを製品化しています。チョークコイルや共通モードフィルタもコイルの一種です。EMC対策部品は各種の電子機器から発生する電磁ノイズを低減するための電子部品です。近年、ICのクロック周波数が高くなるにつれ、高周波ノイズが発生しやすくなり、この問題が深刻化しています。当社では、EMC対策部品として高周波ノイズの吸収特性に優れたフェライトを材料としたビーズやフィルタ等、幅広い製品を用意しています。「高周波部品」は主に、携帯電話などの高周波回路に使われる部品です。携帯電話では、主に音声周波を高周波に変調・復調にする必要があり、フェライトを使って電波の交通整理をするアイソレータ、携帯電話で特定の周波数を作り出す回路に用いられるVCO(電圧制御発信器)、同じく送受信時に異なる周波数の電波を振り分けたり、混合したりするダイプレクサなどが使われています。これらはコンデンサ、コイル、抵抗器、ICやトランジスタ等を組み合わせたモジュールです。

「その他」には交流を直流に変換するスイッチング電源、逆に直流を交流に変換するDC-ACインバータ、そして直流電圧を昇降圧するDC-DCコンバータ、トランスがあります。トランスは共通の磁気回路を持つ2つ以上のコイルを組み合わせて、電磁結合により交流電圧の昇降またはインピーダンスの変換を行うものです。また、センサ・アクチュエータやチップバリスタがあります。センサは湿度やプリンタのトナー濃度等を測定し、電気信号として出力するものです。アクチュエータは圧電ブザーに代表される製品です。チップバリスタは、機器の誤動作につながる静電気放電やパルスノイズ等の異常電圧から電子回路を保護するための部品です。

<売上高概況>

当製品区分は「インダクティブ・デバイス」、「高周波部品」および「その他」の3つで構成されます。

当製品区分の売上高は、1,163億87百万円(前期1,079億99百万円、前期比7.8%増)となりました。



高周波部品



コイル(インダクタ)



チップバリスタ

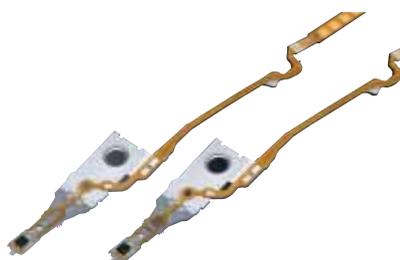


パワーシステムズ製品

「インダクティブ・デバイス」:売上高は前期比で増加しました。電子デバイス製品の主要製品であるインダクティブ・デバイスは、売価下落や為替の影響があった一方で、自動車の電装化の加速、携帯電話の高機能化等に伴う需要増と新製品の投入効果により、売上高は前期比で増加しました。

「高周波部品」:売上高は前期比微減となりました。高周波部品は、主な客先である携帯電話メーカーからの売価値引き要求が引き続き強く、これを販売数量増加、品種構成の好転で吸収できず売上高は前期比で微減となりました。

「その他」:売上高は前期比で増加しました。パワーシステムズは、DC-DCコンバータ、DC-ACインバータが堅調でした。センサ・アクチュエータは、通信およびPC関連分野の伸びにより売上高は前期比で増加しました。その結果、その他の製品全体としての売上高は前期比で増加しました。



HDD用GMRヘッド

記録デバイス製品

<製品説明>

「HDD用ヘッド」はディスクに記録した信号の読み出しに、磁気の変化を抵抗値の変化として磁気抵抗効果(MR:Magnetoresistive)を利用した薄膜ヘッドです。MRとは磁界によって電気抵抗値が変化する多様な現象の総称であり、このMR効果を利用したMRヘッドの実用化によって、高密度記録への対応が可能となりました。現在は、MRヘッドより再生感度の高いGMR(Giant-MR)ヘッドが主流となっています。

「その他ヘッド」として、光ピックアップ、フロッピーディスクドライブ(FDD)に使われる磁気ヘッド、サーマルヘッド等があります。

「その他ヘッド」として、光ピックアップ、フロッピーディスクドライブ(FDD)に使われる磁気ヘッド、サーマルヘッド等があります。



DVD用光ピックアップ

<売上高概況>

当製品区分は「HDD用ヘッド」と「その他ヘッド」の2つで構成されます。当製品区分の売上高は、2,345億78百万円(前期2,301億5百万円、前期比1.9%増)となりました。

「HDD用ヘッド」:売上高は前期比で増加しました。主力製品であるHDD用ヘッドは、主要顧客の一家が2004年からHDD用ヘッドの内製を始めたことにより取引がなくなったこと、さらに売価下落や為替の影響もありました。また、上期にはHDDの在庫調整もありましたが、それが一巡した下期にはHDD用ヘッドの需要増があり、売上高は前期比で増加しました。

「その他ヘッド」:売上高は前年同期比で減少しました。光ピックアップの不振が要因です。

IC関連その他製品

<製品説明>

「電波暗室」は、その内壁に電波吸収用フェライトタイルを張りつけたものです。この電波暗室は外部からの電磁波を遮断するとともに、内部での反射を抑えるので、自動車等あらゆる電子機器を含む製品のノイズ測定・評価が可能と

なります。

また、当製品には、外販用の製造設備の他に前述の3製品(電子材料、電子デバイス、記録デバイス)に入らない有機ELディスプレイ等のその他製品や新規開発品が含まれます。

<売上高概況>

当製品の売上高は、194億49百万円(前期148億70百万円、前期比30.8%増)となりました。

電磁ノイズ評価用の電波暗室等の売上高が前期比で微増、さらに顧客の半導体設備投資増を背景に、外販用の製造設備の売上高が前期比で増加しました。



電波暗室

記録メディア・システムズ製品部門

当部門は「オーディオテープ」、「ビデオテープ」、「光メディア」および「その他」の4つで構成されます。

当部門の売上高は、1,126億39百万円(前期1,360億円、前期比17.2%減)、営業損失は76億90百万円(前期22億5百万円の営業損失、前期比248.8%悪化)となりました。

「オーディオテープ」および「ビデオテープ」:売上高は前期比で減少しました。オーディオ・ビデオテープは依然高い市場シェアを維持していますが、構造的に需要が縮小しているため、売上高は前期比で減少しました。

「光メディア」:売上高は前期比で増加しました。光メディア製品は、DVD売価の急落、CD-Rの減収をDVDの販売数量増でカバーし、売上高は前期比で増加しました。

「その他」:売上高は前期比で減少しました。その他製品では、コンピュータ用データストレージテープのLTO* (Linear Tape-Open) は売上高が増加しましたが、ソフトウェア開発を手掛けていた米国子会社を前期に売却したことによる売上高減、レコーディング機器の販売減などにより、その他製品の売上高は前期比で減少しました。

*Linear Tape-Open、LTO、LTOロゴ、Ultrium、Ultriumロゴは、Certance LLC、Hewlett-Packard Ltd、IBM Corporationの米国およびその他の国における商標です。

<製品説明>

記録メディア・システムズ製品部門は、オーディオテープ、ビデオテープ、光メディア、コンピュータ用データストレージテープが主な製品です。光メディアには、一度だけ記録ができる追記型CDのCD-Rディスクと、同じ直径12cmのサイズで記憶容量がCDの約7倍(4.7ギガバイト)のDVDがあります。また、TDKは次世代の光メディアとも言われ、大容量データを記録できるブルーレイディスクを製品化しました。

一方、コンピュータ用データストレージテープでは、LTO (Linear Tape-Open) と呼ばれる規格の磁気テープバックアップ装置向けのテープとして、LTO Ultrium 3の規格の承認を受けたものを製品化しています。



DVD



ブルーレイディスク



LTO